

「言葉の院外処方箋」

新渡戸稲造記念センター 長 樋野興夫

第125回

『「脇を甘くする懐の深さ」 ～ プロフェッショナルの姿 ～』

2022年9月3日 早稲田大学エクステンションセンター(早稲田校に於いて)で、講座『がんと生きる哲学 ～ 医師との対話を通して「がん」と生きる方法を考える ～』に赴いた。テキストは、『がん細胞から学んだ生き方「ほっとけ 気にするな」のがん哲学』(へるす出版)を用い、下記の3箇所を音読しながら進めた。

●**プロの為さざること**：【内村鑑三(1861-1930)は『天職と一生』のなかで、「ゼントルマンの為さざること」という文章を残している。それにならって、「プロの為さざることの5カ条」を考えてみた。その5カ条とは

- 1) 「プロは人をその弱きに乘じて苦しめず」
- 2) 「プロは人に悪意を帰せず」
- 3) 「プロは人の劣情に訴えて事を為さず」
- 4) 「プロは友人の秘密を公にせず」
- 5) 「プロは人と利を争わず」

である。現在、あらゆる分野で知識が断片化し、プロフェッショナルの形骸化の時ではなかるか!? ——『疾風に勁草を知る』という故事がある。試練に直面したときに、その人の節操の堅固さや意思の強さがはじめてわかるという意味で、プロフェッショナルの姿をここにみることができる。】

●**日本は肝臓を目指す**：【ある講演で「日本はどのような国を目指したら良いと思いますか？」と質問を受けたので、「肝臓のような国を目指すのはどうでしょうか！」と答えて、肝臓の特徴を簡単に説明した。

- 1) 肝臓は正常のときには静かにしている」
- 2) 「3分の2を切除しても2週間で再生する」
- 3) 「異物に対して寛容である」
- 4) 「ほかの臓器移植と比べて免疫抑制剤は10分の1で済む」
- 5) 「解毒・代謝作用がある」

以上の5つを挙げて、「日本が肝臓のような国になったら、きっと世界から尊敬されると思います」と結んだ。筆者が考えた『日本肝臓論』である。——人間の臓器・組織は一つの受精卵からはじまって約200種類になる。世界の国の

数とほぼ同じである。たとえば世界平和を考えると、形而上学ではなく具象的に考察する。世界平和のヒントは身体生命現象のなかにたくさんある。地球を一人の人間に見立てて、世界各国がそれぞれ臓器のように役割を担えば世界は平和になると考える。これが、『日本肝臓論』の応用編である。】

●**脇を甘くする懐の深さ:**【病理の研究室にこもって顕微鏡ばかり覗いていた筆者が、外に出るようになったのは、2000年に『新渡戸稲造(1862-1933) 武士道 100周年記念シンポジウム』を国連大学のウ・タント国際会議場で主催してからである。前年(1999年)に今は亡き原田明夫 検事総長から電話がかかってきて、学士会館で食事をして「新渡戸稲造のイベントを一緒にやりましょう」と誘われました。新渡戸稲造の100周年イベント後も原田明夫 先生とは、『新渡戸稲造生誕140年』(2002年)、『新渡戸稲造没後 70年』(2003年)、『新渡戸稲造 五千円札さようならシンポジウム』(2004年)を開催した。シンポジウムを開催するなかで、原田明夫 先生から「脇をあまくして、人につけ入る隙を与えて、懐の深さを示して感動を与える」ことを教えてもらった。—— 医師や看護師が脇を締めていると、患者さんは心を開くことができない。患者さんが心を解放しなければ、科学的に進歩しても良い医療は提供できない。思い切って「脇を甘くする懐の深さ」を 今こそ医療従事者は持つべきではなからうか!】

多数の質問もあり、大変充実した貴重な時となった。2022年度秋学期講座は、早稲田大学エクステンションセンター中野校で開講とのことである(画像)。「仕えられるためではなく、かえって仕えるために」(マタイ20章28節)。まさに、医療従事者の心得でもなからうか! 今回の講座は、不思議な良きタイミングであったと実感した。

がんと生きる哲学

医師との対話を通して「がん」と生きる方法を考える

樋野 興夫(恵泉女学園 理事長、新渡戸稲造記念センター長、順天堂大学名誉教授)

コード	330509	定員	単位	曜日	時間	10:30~12:00
受講料	会員	¥14,850	24名	1	土	
	ビジター	¥17,077				
		日程	10/22, 11/19, 11/26, 12/3, 12/10			
		全5回				

◆ 目標 ◆

がんとともに暮らすことを知り、がん患者と対話し、がん患者に寄りそう方法を受講者自らがみつけ、笑顔になることをめざします。

◆ 講義概要 ◆

「がん哲学」とは、生きることの根源的な意味を考えようとする患者と、がんの発生と成長に哲学的な意味を見出そうとする医師との対話から生まれました。日本人の半分ががんになる時代、好むと好まざるとにかかわらず、多くの人のがんと一緒に生きる方法を見つけなければなりません。授業では教科書の読みあわせと解説をしつつ、受講者とのディスカッションを中心に講義をすすめます。がんとともに生きている患者さん、がん患者の家族や身近に患者がいる人、医療従事者等のがん患者に寄りそいたいと思うかたすべてが対象です。

◆ テキスト ◆

『がん細胞から学んだ生き方』(へるす出版) (ISBN:978-4-867190302)

◆ 講師プロフィール ◆

順天堂大学医学部病理・腫瘍講座教授。医学博士。癌研究会研究所、米国アインシュタイン医科大学、Fox Chase Cancer Center などを経て現職。「がん哲学外来」を設立。高松宮妃癌研究基金学術賞、保健文化賞、朝日がん大賞、長與又郎賞。



資料請求

講座のお申込み
お問い合わせ

早稲田大学 エクステンションセンター

TEL 03-3208-2248 URL <https://www.wuext.waseda.jp/>

〒164-0001 東京都中野区中野 4-22-3 (中野校)